

## 2022 年度第 5 回 N P O 法人共同保存図書館・多摩理事会

- 1 日 時：2022 年 10 月 11 日（火） 午後 8 時 00 分から午後 9 時 20 分
- 2 方 法：ZOOM アプリを媒介にしての遠隔会議
- 3 議決権のある理事：9 名  
出席者：座間直壯、齊藤誠一、田中ヒロ、手嶋孝典、中川恭一、保坂一房、堀渉  
欠席者：清田義昭、堀越洋一郎  
事務局員の参加者：雨谷逸枝

### (1) 第 1 号議案 会員の動向について【報告】

- ・2022 年 10 月 11 日（本日）現在  
正会員 80 名 2 団体 賛助会員 35 名 2 団体、計 115 名 4 団体（合計 119）  
（前回と変わらず）

### (2) 第 2 号議案 総会記念講演会の動画の一般公開について【報告・討議】

- ・保坂一房氏に「地域資料とデジタルアーカイブーたましん歴史文化財団歴史資料室を例に」と題して講演し、自ら動画制作していただいた。
- ・8 月 1 日に多摩デポ会員 ML に案内と URL を送り、登録している会員に YouTube による総会記念講演会の限定公開を行った。ML の案内には 9 月一杯の期限で公開すると説明した。
- ・それ以外には PR しなかった。昨日現在、116 回の視聴回数となっている。
  
- ・視聴した会員へのアンケート
  - ・前回理事会（8 月 9 日）の討議を経て、会員 ML で、視聴した会員に向けてアンケートを出した。今回の講演方法や歴史資料室のデジタルアーカイブを視聴した感想、関連して最近の公立図書館のデジタルアーカイブの感想など。またこの講演動画を一般公開する時はどんなどころで紹介したらよいかなどを聞いた。しかしアンケートの発信が多くの方が既に見終わったタイミングだったからか、内容が簡単には答えにくかったからか、返事はほとんど戻らなかった。
  - ・それで内容を今回の講演方法を主にして作り直し、9 月 20 日に再度、会員 ML でアンケートを出した。その結果、添付したような回答が返ってきた。数は多くはないが、お返しいただいた限りでは高い評価を得られたようだ。
  
- ・講演会動画の一般公開について
  - ・前回の理事会で、「オンデマンドの配信は繰り返して視聴することができる」、「長く公開が図れるといい」というご意見だった。
  - ・これから YouTube の URL を多摩デポウェブサイトに掲載、紹介し、対外的にもそれを PR し、長く一般公開していきたい。まずは多摩地域の図書館に紹介チラシを送り、直近の『多摩デポ通信』でも記事で紹介する。また、日本図書館協会のメールマガジンに案内を出す予定。多摩デポホームページに案内を載せたのち、それぞれが関係するメーリングリスト等で

拡散する。

- ・一般公開にあたり、内容的にはコンテンツの最後に、「この講演動画を視聴されたご感想やご意見を『多摩デポ』にお寄せください。多摩デポのメールアドレスは〇〇〇です」というメッセージ画面を一枚加える。もしくは、動画の最後に「ご感想ご意見・ご意見はこちらへ」のような一文を付けることを考える。

(3) 第3号議案 多摩デポ実践講座の今後の実施に向けた検討について【報告・討議】

- ・市町村立図書館長協議会の図書館サービス研究会の担当館長（会長）の協力を得て、多摩地域の各自治体の図書館に、別紙の「TAMALASの活用方法等についてのアンケート」を実施した。図書館サービス研究会会長から、9月12日付で図書館の業務ルートで依頼した。
- ・聞いた内容は、多摩デポが提供しているTAMALASが各自治体での除籍作業に有効かどうか、その自治体の除籍作業の仕組みや頻度、今年3月に配信した図書館サービス研究会の研修動画（府中市立中央図書館の書庫点検の事例報告）を視聴した感想など。
- ・アンケートは9月末を回答締切りとしていたが、10月10日現在、図書館サービス研究会会長からの結果の連絡がまだ届いていない。
- ・アンケートの回収ができれば、多摩デポ事務局及び図書館サービス研究会幹事会で集計結果を共有し、今後の各々の活動に活かしていく。
- ・次回の理事会前に結果がまとまれば、随時、理事会ML等で報告し、次の実践講座につなげていきたい。

(4) 第4号議案 全国の都道府県単位での共同保存の実態調査について【報告・討議】

- ・多摩デポが構想している「公共図書館の広域連携による蔵書の共同保存」は、残念ながら図書館界で話題としてあまり取り上げられず、実践が具体的に研究されているとは言えない。そんな中、全国公共図書館協会（「全公図」）が、2018年度と2019年度に全国調査を行い、結果を『公立図書館における蔵書構成・管理に関する報告書』にまとめている。
- ・特に2018年度の報告書の第6章「都道府県域での資料保存の取組」には、これまでほとんど知られていなかった全国の悉皆調査の結果が紹介されている。
- ・それによると「図書」を対象に共同保存の取り組みがあるのは6県程度なので、各県の実態や発足したいきさつや経過を詳しく調べて研究し、今後の活動に生かしたい。
- ・これは昨年度、今年度の総会議案書でも課題として書かれていることだが、具体的にどう進めるか。4、5年前に日本図書館協会の資料室で、収蔵している県立図書館の事業年報や業務報告書などを調べた時にはほとんど記載が見られなかった。事務局会議では、該当する県立図書館に送る、添付のような調査アンケート（案）を考えた。
- ・しかし現在では、全国の県立図書館や県の図書館協会のウェブサイトをよく調べると、ある程度の情報が記載されていることが分かってきた。公開されている文書、公開データからできるだけのことが調べられるといい。まずはこうした事前調査から始めていきたい。

(5) 第5号議案 府中市立図書館の所蔵目録のISBN未記載データへの機械的なISBNの推定と検証の事業について【報告・討議】

- ・(株)カーリルとの共同研究定例会では、たましん歴史資料室の所蔵データへのISBN付与の経験を踏まえ、多摩地域の公立図書館のISBN未記載データへの遡及入力事業を実施する方向を確認し、協力してくれる相手として、まず府中市立図書館に打診してきた。
- ・9月22日には、座間理事長、堀事務局長、齊藤理事が府中市の平野図書館長を訪問し、別添資料を示して説明・協力をお願いした。
- ・多摩デポからの申し出は、自館の所蔵データの整備を図れること、また多摩地域の他の図書館にも紹介できるモデルになることとして賛成、協力してもらえることになった。
- ・その後、府中市立中央図書館の担当者である笹川氏とのやり取りを経て、10月6日に府中市のISBNが未入力の、日本ではISBN導入初期の所蔵データを抽出、(株)カーリルに送付した。
- ・今回、府中市立図書館が選んで依頼してきたデータは次のとおりである。

- ①児童書(9類)：出版年1983-1993年の資料13,038件のうちISBN未入力資料2,667件
- ②地域資料：出版年1983-1993年の資料12,334件のうちISBN未入力資料10,545件
- ③一般書(9類)：出版年1983-1989年の資料30,455件のうちISBN未入力資料7,056件

- ・今後、作業の詳細は共同研究の定例会で詰めながら進めていく。
- ・これから(株)カーリルの方でまず、このデータと所有のデータベースとの突合を行い、ISBNを機械的に推定・附番し、結果を多摩デポに報告してくることになっている。
- ・その後、多摩デポの方で、ISBNが推定・附番されたデータの検証作業を行う必要がある。そしてその結果を(株)カーリルとも検討し、府中市立図書館にお返しする。
- ・ISBNが推定・附番され、検証を行う必要があるのがどのくらいの量になるかまだ不明だが、検証作業を担ってくれる多摩デポ会員を募集し、集まった人を振り分けて作業に入っていく。たましん歴史資料室の作業の時は、昨年度の総会後に開催した会員のZOOMによる意見交換会でPPTによる説明を行い、協力者を募った。今回はどのように募集するか、検討・準備が必要。
- ・作業ボランティアを募集する文章を作る時には、府中市立図書館へお出しした説明資料を加工して作成する予定。

## (6) 情報交換

- ・日本図書館協会の『現代の図書館』vol.60 no.2(通巻242号)のp106~p113に、予定していた『専門図書館の蔵書の書誌に対するISBN大量遡及入力の実践—たましん地域文化財団歴史資料室を事例に一』(齊藤誠一、保坂一房、吉本龍司共同執筆)が投稿論文として掲載された。奥付表記は2022年8月25日発行とあるが、実際は9月になってからの発行だった。
- ・今年度2回目の「里親探し」事業
  - ・府中市立図書館から8月15日に、5種類の全集、計169冊の他の図書館への活用提供の斡旋の依頼があった。すべて未使用の寄贈本だった。
  - ・すぐ多摩地域の所蔵状況の調査を行い、各自治体の欠本状況を個別に記載した募集案内を29自治体分作って募集をかけた。最終的には8自治体から応募が来て、今回はほとんど重複することなく、51冊の斡旋が成立した。成立した書籍を9月後半に府中市立図書館から受け取り、配達を行った。
- ・『多摩デポブックレット第16号』の編集、発行について
  - ・総会記念講演会を元にブックレットを製作する。今年度内の発行を目指して、講演者には追加

する部分を含めて、書き直してもらっている。

- ・『多摩デポ通信』は、季刊の会報としては、通常夏号の発行を飛ばす結果になってしまった。今月中にはなんとか第 61 号を編集、発行していきたい。
- ・公立図書館のデジタルアーカイブの現状について
  - ・コロナ禍の中で、来館しない方にも提供できるサービスとして電子図書館事業を始める図書館が増えている。自治体や図書館が保有する地域資料や行政資料をデジタル化して公開することも始まっている。地元住民でなくても見られオリジナルのコンテンツも多いので今後の展開に注目したい。各図書館のホームページからでなくても横断的に検索できる仕組みがあればいいが、コンテンツの書誌データは未整備なのが現状のようだ。

【多摩デポ関係記事】

- ・時になし

【共同保存図書館関連論文】

- ・我々が発表した『現代の図書館』論文以外は、特になし

【今後の予定】

- ★ カーリルとの共同研究 定例会 10月25日(火) 午後8時より、Zoomを使って
- ★ 事務局会議(2022年度第9回) 10月28日(金) 午後8時より、Zoomを使って
- ★ 次回理事会 第6回理事会 12月16日(金) 午後8時より、Zoomを使って

5 議事録署名人の選任

議事録署名人として2名を選任することを諮り、手嶋孝典理事、中川恭一理事を選任することを全員異議なく承認した。

以上、この議事録が正確であることを証します。

2022年10月11日

議長

議事録署名人

議事録署名人